

第 33 号

2002年9月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



埴輪窯跡（南西から）

県内初！埴輪窯跡の発見 —赤磐郡熊山町 土井遺跡—

岡山県古代吉備文化財センターでは、美作岡山道路の建設に先立って、平成9年度からその予定地内にある遺跡の発掘調査を実施しており、6年目の今年は、赤磐郡熊山町と勝田郡勝央町で発掘調査を進めています。そのうち、熊山町土井遺跡で埴輪を焼いた窯跡が2基見つかりました。これは岡山県では初めての発見で、中国地方でも、島根県平所窯跡、山口県門光寺窯跡に続いて3例目という貴重な資料です。

土井遺跡は、岡山県南部、赤磐郡熊山町可真上の丘陵上に所在します。この丘陵はつい最近まで墓地として利用されていましたが、今回の道路建設のため、お墓は事前に移転することになりました。その移転が終了した跡地を見に行くと、丘陵西側斜面に埴輪の破片がたくさん落ちていたところがあります。埴輪は古墳で見つかることが多く、当初は近くに古墳の壊された跡があるのだろうと考えていました。ところが、



埴輪がたくさん見つかったところ

調査のために重機で表土を取り除くと、埴輪がたくさん見つかったところの南側の崖に、地面が赤く焼けた部分が2か所見つかり、窯跡が2基あることがわかりました。しかも、その下の斜面からは炭、焼土と一緒に埴輪片が多数出土し、この窯が埴輪を焼いたものであることが判明しました。また、埴輪が最初に見つかった場所を掘り下げると、比較的残りの良い円筒埴輪や人物埴輪などが見つかり、ここは、焼き上がった埴輪を集めた場所だったようです。

窯跡は、南側を1号窯、北側を2号窯としました。どちらも斜面に直交する形で溝状に掘り下げ、そこにアーチ形の天井を架けるいわゆる窖窯あながまですが、天井はすでに落ちており、一部は江戸時代のお墓に壊されています。規模は、それぞれ長さが5mほどで、幅は1号窯が1m、2号窯は少し広くて1.3mです。



人物埴輪

窯の中を掘り下げていくと、崩れ落ちた天井や窯壁などと一緒に埴輪片が出土したほか、2号窯からは陶棺の破片も見つかりました。陶棺とは、岡山県と近畿地方の一部など、限られた地域で見つかる大きな焼き物の棺で、蓋の様子が亀の甲羅に似た亀甲形きっこうがたと呼ばれるものと、家の屋根の形をした家形に大きく分けられます。今回見つかったものは土師質の亀甲形です。

埴輪は古墳をつくり始めたときから使われていますが、6世紀の終わりから減少します。それに対し陶棺は6世紀後半から出土例が増加します。これまで、つくり方の特徴などから、陶棺の製作には、埴輪の工人が関わっていたのではないかと考えられていましたが、今回一つの窯跡から一緒に出土したことで、その考えが証明されました。

埴輪、陶棺の特徴や、一緒に出土した須恵器から判断すると、窯を築いた時期は6世紀後半頃となります。この窯跡の発見により、当時の埴輪生産の様子を具体的に考える手掛かりを得ることができたと同時に、陶棺についても、埴輪とともに窖窯で焼いていたことが明らかになり、その起源を考える上でも重要な発見となりました。今後は、出土した埴輪や陶棺を検討し、ここの製品が運ばれた範囲を調べていきたいと考えています。

8月10日に現地説明会を開催したところ、400名以上の方が来場され、大変な盛況となりました。猛暑の中、参加して下さった方々に、この場をかりてお礼申し上げます。(重根弘和)



現地説明会の様子

中国山地の弥生時代集落 —真庭郡湯原町 広段城山城跡—

広段城山城跡は、一般県道種見明戸線道路改築に伴って平成13年4月から平成14年6月まで発掘調査を行いました。遺跡は、現在の見明戸集落を南に見下ろす標高500m前後で、集落からの比高差は約60mを測り、斜度約40度ととても急な斜面を持つ尾根上に立地します。

調査前には、尾根上の先端部から奥に向かって人の手によって平らに加工された地形が確認され、土を積んだ塀(=土塁)がみられることから中世の山城が築かれていると考えていました。

ところが、調査を進めていくと山城は土塁のある地区だけで、尾根全体に弥生時代後期の中頃から終わりにかけての集落が営まれていて、平らに見えた地形は集落を築くときの大規模な宅地造成の跡であることが分かりました。

弥生時代の遺構は日当たりの良い南側の斜面に向かって築かれたものが多く、竪穴住居・段状遺構50軒以上、貯蔵などの機能が考えられる土壙40基などがあります。

出土遺物には、日常生活に使われた土器(つぼ・かめなど)が多くあり、中には赤く塗られてお祭りに使われたと考えられる土器もみられます。また、備中(=県南部)の首長と交流のある、限られた遺跡でしか出土しない特殊器台といわれる大形の器台の破片も出土しています。これ以外の土器の形をみると、地元のものに混じって山陰地方に特徴的な形の土器(鼓形



比高60mの尾根上に築かれた集落(東半)

器台・こしきなど)が多くあります。

土器以外には石製の工具(と石)・調理具(台石・たたき石)や鉄製の農具(鋤先)・工具(斧・やりがんな)・武器(やじり)が出土しています。

これらのことから、この遺跡が県南部と山陰地方の交流をする際の旭川上流域での拠点の一つであったことが推測されます。(杉山一雄)



尾根線上に築かれた直径約10mの円形住居



北側斜面に集中する貯蔵穴群

二重堀の中世居館 —総社市 総社遺跡—

総社遺跡は総社市街地の北東に所在する遺跡で、国道180号総社バイパスの建設に伴い発掘調査を実施しました。ここでは中世の居館（やかた）の調査成果を紹介します。

居館部分の調査範囲は東西75m、南北35mで、調査前は水田や竹藪となっていました。

検出した遺構は堀と土塁です。土塁は東西方向にのびて西端で南東方向に鋭角に曲がっており、江戸時代の塚が重複したため形状が保存されていた部分では幅3m、高さ1.7mを測り、断面形は台形を呈することが判明しました。

土塁の西側と北側には平行する2条の堀が掘削されています。西側の堀は南東—北西方向をとり、内堀が幅10m、深さ2m、外堀が幅6m、深さ1.5mでした。

これらの配置や形状から、調査区は二重の堀と土塁という三重の外周防御線をもつ居館の北西隅にあたとみられます。総社市教育委員会による確認調査でこの位置に中世居館の所在が推定されていましたが、今回の調査によって、大規模で入念な構造の居館であることが判明しました。居館は南北150m、東西110m以上の規模で、北辺のみ斜めになる台形の平面形になると推定されます。これは北東側に河道が所在するという地形の制約によるものと考えられます。

北側内堀は調査区東端で南と東に分岐するとみられ、居館の内部が堀によって区画され、後



内堀と土塁（北西から）

世の城の本丸、二の丸というような区割りがなされていたと推定できます。また、土塁の東端は以前に設けられていた内堀を埋めた上に築造されており、戦国時代に大規模な改修がなされたことが判明しました。

遺物の出土量が少ないため時期の判断がやや難しいのですが、出土の備前焼から大規模な改修がなされたのは戦国時代末と判断できました。居館の位置からすれば、もしかするとこの改修は、羽柴軍の侵攻に備えて毛利方が行った城郭の修築の一つであったのかもしれませんが、北外堀の底面からは14世紀前半（南北朝時代）の土師質の椀が出土しており、居館の構築はこの時期までさかのぼる可能性が考えられます。

地元ではこの付近に国府市正の館があり、堀があったと伝えられていました。出土遺物などから証明することは困難ですが、戦国時代に清水宗治の部将として活躍し、備中高松城に籠城した武将、国府市正がこの居館の最後の主であったのかもしれませんが。

居館は有力武士の平時の居住場所であり所領統治の場ですが、調査例が少ないため、構造や変遷などはあまり明らかになっていません。広大な遺跡であるため外周部分の一部の調査にとどまったわけですが、構造や年代などが判明した本例は、この地域の中世居館・城郭研究の重要な資料になると思われます。（宇垣匡雅）



調査区全景（北上空から）

岡山市 川入遺跡出土の円面硯 えんめんけん

川入遺跡は、1970年以來幾たびか発掘調査が行われた、県内でも有数の集落遺跡です。中世までは、瀬戸内海が間近に迫る文字通り「吉備津」に近い大集落だったようです。

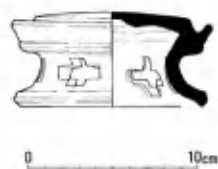
文化財センターでは2000年4月から今年の3月にかけて、県道改築のため発掘調査を手がけてきましたが、多くの出土遺物や見つかった遺構などから、今から2,400年余り前の弥生時代前期から室町時代にかけて集落が形成されていたことがわかりました。

2月のある日、古代建物群近くの浅い溝の中から丸い形の須恵器が見つかりました。逆さまに出土しているが、これは円面硯ではないか？写真撮影後、慎重に取り上げてみると硯に間違いはない。破片をすべて接合してみるとほぼ完全になる。一緒に出土した土器から1,300年前に使われたことも明らかになりました。

当時のわが国は、大陸の進んだ文化を取り入れながら律令国家への第一歩を踏み出した頃です。戸籍や租税に関する公文書の作成には文字の使用が欠かせず、「文房四宝」すなわち紙・筆・硯・墨は当時の行政に携わる役人の貴重な必需品といえるものでした。硯は官衙や寺院跡からの出土が目立ちます。 (岡田 博)



円面硯出土状態 (法万寺3区)



円面硯実測図 (1/4)

寄島町 福井山遺跡の発掘調査

福井山遺跡は浅口郡寄島町福井に所在する、福井山 (標高68m) 上に位置しています。この山が墓地公園として開発されることになったため、寄島町教育委員会の依頼により、岡山県古代吉備文化財センターが事前に発掘調査を行いました。その結果、頂上の東西に細長い平坦面から、盛土遺構1基と火葬墓3基が発見されました。

盛土遺構は、直径6m、高さ50cmほどの高まりで、当初古墳とされていました。盛土の中から中世の土器が見つかったことから、中世以降に築造されたことがわかりました。

火葬墓は、盛土遺構の北西部に隣接して2基、東へ30mほど離れたところに1基発見されました。盛土遺構に隣接する2基には亀山焼の甕が、離れた1基には土師質の浅鉢が、それぞれ火葬骨が納められた状態で残っていました。いずれも上面を削平されていますが、火葬骨を納めた

容器を地面に固定して、その周りを石で覆った構造が考えられます。

これらの火葬墓は、鎌倉時代後半～室町時代に営まれたと考えられます。また盛土遺構は遺物が少ないため、中世以降に築造されたということしかわかりませんが、火葬墓に伴う宝篋印塔などの石造物を建てた、壇のようなものであった可能性も考えています。 (河田健司)



火葬墓3 (南から)

センターの活動から

吉備を掘る —最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査報告会—

今年で15回目を迎えるこの報告会は、装いも新たに「吉備を掘る」というタイトルを付け、8月3日（土）に岡山県生涯学習センターにて開催しました。この報告会は、県下において発掘調査が行われた遺跡をスライド映写によって紹介するもので、県文化財センターのみならず、市町村教育委員会が調査した遺跡についても協力を得て行っています。

当日は170名を超える参加者があり、報告会場が満席となりました。調査担当者自身の報告によって発掘調査現場の臨場感を感じることができたでしょうか。参加者みなさんの質疑応答や、発表者とのやりとりなど、会場は例年にもまして夏の暑さに負けないほどの熱気にあふれていました。

当日報告を行った7遺跡は次のとおりです。弥生時代の集落、古墳、古代山城、古代の港、中世の居館など、バラエティーに富む紹介を心掛けましたがどうだったでしょうか。

- (1) 山ノ奥遺跡（勝北町） 県文化財センター
- (2) 才地遺跡（佐伯町） 県文化財センター
- (3) 橋本塚古墳群（津山市） 津山市教育委員会
- (4) 小池谷遺跡・小池谷古墳群（勝央町） 勝央町教育委員会
- (5) 鬼城山（総社市） 総社市教育委員会
- (6) 川入遺跡（岡山市） 県文化財センター
- (7) 総社遺跡（総社市） 県文化財センター



今年の報告会は、タイトルの変更だけではなく、新企画として、昨年度の参加者アンケートで要望が多かったパネル写真展示・遺物展示を行いました。この出張博物館は、スライド報告会場横の部屋を展示室とし、7か所の報告遺跡と次の遺跡を併せ、合計11遺跡の出土遺物を展示しました。

- ①吉備津杉尾西遺跡（岡山市教育委員会提供）
- ②清水谷遺跡（矢掛町教育委員会提供）
- ③草足塚西遺跡ほか（井原市教育委員会提供）
- ④上神代狐穴遺跡（哲西町） 県文化財センター

いずれの遺跡も、昨年度現地説明会や新聞発表などで話題になった遺跡です。

「来年はどんなスライド会にしようかなー」センター職員は、もう来年度の計画を練っています。来年を楽しみにぜひ参加してください。



最近刊行された報告書

当文化財センターでは、昨年度末に新たに8冊の報告書を刊行いたしました。住居内で赤い顔料を求め、ベンガラを磨り潰す作業を行っていた「水口遺跡」、全長40mにもおよぶ室町時代の橋や平安時代の堤防が発見された「百間川米田遺跡4」、直径12mと県下最大級の弥生時代の大型堅穴住居が掲載されている「立石遺跡大開遺跡 六番丁場遺跡 九番丁場遺跡」や、「山崎古窯跡」では中世備前焼の型式編年が掲載されています。これ以外にも話題になった遺跡・遺物も多く、内容も多岐にわたっています。

これらの報告書は、県総合文化センターや岡山市立中央図書館あるいは県下各市町村教育委員会は勿論のこと、各都道府県の関係機関などにも配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。

内容などの詳細については、当センターへお問い合わせください。

- ①岡山県埋蔵文化財発掘調査報告162「服部遺跡 北溝手遺跡 窪木遺跡 高松田中遺跡」岡山自動車道4車線化に伴う発掘調査
- ②同163「水口遺跡」広域営農団地農道整備事業（備前東部地区）に伴う発掘調査
- ③同164「百間川米田遺跡4」旭川放水路

（百間川）改修工事に伴う発掘調査XIV

- ④同165「立石遺跡 大開遺跡 六番丁場遺跡 九番丁場遺跡」一般国道179号線道路改築工事に伴う発掘調査
- ⑤同166「下湯原B遺跡 藪登山城跡」一般国道313号改良事業に伴う発掘調査
- ⑥同167「山崎古窯跡」一般県道磯上備前線道路改築に伴う発掘調査
- ⑦同168「福見口遺跡 殿釜遺跡 大高下遺跡 大柄畑遺跡」主要地方道加茂奥津線改良に伴う発掘調査
- ⑧同169「神之脇遺跡ほか」矢掛町南山田地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査



出土遺物・写真の貸出状況

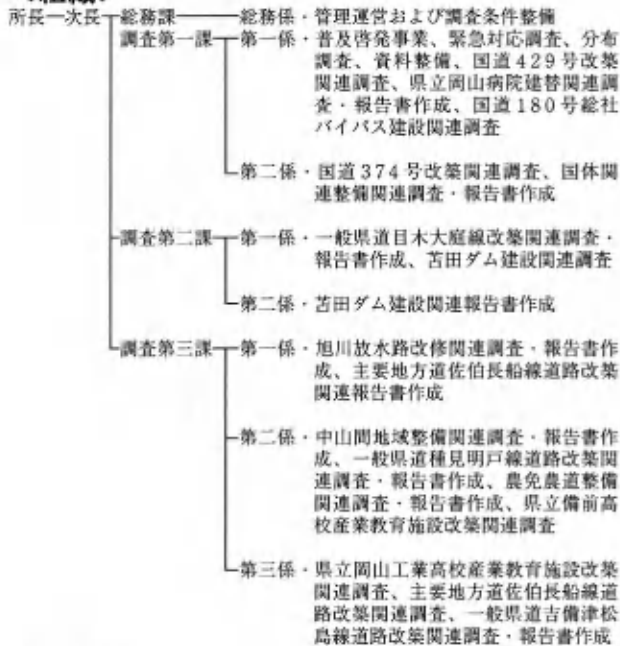
当センターでは、発掘調査で発見された出土遺物や、調査時や発掘報告書で使用した写真などの貸出を行っています。出土遺物に関しては、各地の博物館などで行われる特別展などに利用いただいております。また写真は各種の図録等に掲載される例が多いようです。

過去3年間の貸出件数は、平成11年度は出土遺物が27件1381点・写真が58件370点、平成12年度は出土遺物34件875点・写真が52件408点、平成13年度は出土遺物が30件1053点・写真が49件271点になります。出土遺物で特に貸出が多いのは、西江遺跡（哲西町）の

特殊壺・特殊器台と矢部堀越遺跡（倉敷市）の特殊器台形埴輪です。写真では、南溝手遺跡（総社市）の靱痕のある縄文土器や高塚遺跡（岡山市）の流水文銅鐸・貨泉などが多いようです。西江遺跡の特殊壺・器台と矢部堀越遺跡の特殊器台形埴輪は、普段は当センター1Fにある展示室に隣り合わせて展示されていますが、別々に貸し出される例が多く、両者が揃わない日も少なくありません。1F展示室を訪れた時、両者を揃って見学できた人はラッキーかもしれませんよ。

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成14年度)

<組織>



<職員>

所長	正岡 睦夫
次長	藤川 洋二
総務課	
課長	安西 正則
総務係	
課長補佐(係長)	田中 秀樹
主任	小坂 文男
主事	中塚 廣佳・中川 清 中藤 路子・平井 利尚
調査第一課	
課長	高畑 知功
第一係	
課長補佐(係長)	平井 泰男
文化財保護主幹	内藤 善史・宇垣 匡雅
文化財保護主査	徳田 正紀・大橋 雅也
文化財保護主任	柴田 英樹(岡山市へ派遣) 河田 健司(岡山市から派遣) 渡邊 恵理子・窪津 幸司 尾上 元規(文化課本務)

文化財保護主事	小林 利晴
主事	石田 為成・福井 優(6月から)
第二係	
課長補佐(係長)	島崎 東
文化財保護主幹	二宮 治夫
文化財保護主任	金田 善敬
文化財保護主事	岡本 泰典・佐藤 寛介
主事	時實 奈歩 有賀 祐史
調査第二課	
課長	伊藤 晃
第一係	
課長補佐(係長)	中野 雅美
文化財保護主幹	福田 正継・赤井 義則
文化財保護主任	佐藤 信也
文化財保護主事	氏平 昭則
主事	物部 茂樹・米田 克彦 上裕 武・和田 剛
第二係	
課長補佐(係長)	江見 正己
文化財保護主幹	岡本 寛久
文化財保護主査	弘田 和司
文化財保護主事	蛸原 啓介
主事	河合 忍
調査第三課	
課長	柳瀬 昭彦
第一係	
課長補佐(係長)	下澤 公明
文化財保護主査	藤田 裕文・高田 恭一郎
文化財保護主事	小嶋 善邦・松尾 佳子
主事	大熊 美穂・稲谷 知子
第二係	
課長補佐(係長)	山磨 康平
文化財保護主幹	浅倉 秀昭
文化財保護主査	澤山 孝之
文化財保護主事	杉山 一雄
主事	安永 周平・玉木 秀幸
第三係	
課長補佐(係長)	岡田 博
文化財保護主幹	井上 弘・光永 真一
文化財保護主査	亀山 行雄
文化財保護主事	三宅 健夫・重根 弘和
主事	関 幸代



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内

・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分

・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

開館時間 AM9:00~PM5:00

休館日 土曜日・日曜日および祝日、年末・年始